Title	日本語学習におけるオノマトペ
Author(s)	内藤，みち
Citation	聖学院大学論叢, 21(1): 201-211
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=948
Rights	

聖学院学術情報発信システム ： SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

日本語学習におけるオノマトペ

― 邦画教材に使用されるオノマトペの学習段階別分類と考察 ―

内　藤　み　ち

Japanese Onomatopoeia in the Study of Japanese as a Second Language

― Onomatopoeia in Movies Used at Intermediate/Advanced and Super-advanced Learning Stages ―

Michi NAITO

There are about 2000 Japanese onomatopoeia printed in dictionaries, but some have not been included. There are also many variants. Therefore, it takes time for students, learning Japanese as a second language, to master onomatopoeia, even though it is used very often in our daily life. One of the best ways to learn onomatopoeia is through using a movie as teaching material, since it has visual and auditory scenes. Japanese onomatopoeia in movies used at the intermediate/advanced and super-advanced levels are examined. Onomatopoeia introduced in beginning classes has a higher lexical level as there are no variants. The number of words used are few but are used repeatedly. Onomatopoeia introduced in intermediate and advanced classes has a higher onomatopoeic level and often there are variants. There is a great number of words, but each is only used a few times. Such differences between learning stages are very clear. Onomatopoeia is often to describe appearance. A few compound verbals are used (e.g., adding “-suru” and “-tsuku” to onomatopoeia). This indicates that native speakers of Japanese tend to choose words of higher onomatopoeic level rather than ones of higher lexical level. Thus, to acquire onomatopoeia is one of the very important parts of mastering the Japanese language.

Key words: onomatopoeia, lexical level, onomatopoeic level, variants, advanced/super-advanced learning stages

1　は　じ　め　に

近年，日本の大学および大学院に入学する留学生の増加[(1)]にともない，日本語を使用しての高度な研究や専門職などに従事している，「超上級レベル」の日本語能力を有する日本語学習者を多く

執筆者の所属：政治経済学部・コミュニティ政策学科
論文受理日2008年10月10日

目にする。同様に，日本の大学および大学院に留学する「上級レベル」の日本語能力を持つ日本語学習者も増加している。上級～超上級レベル[(2)]においての主な学習目標は，「文型」[(3)]では初中上級以外の文型規則の習得であり，「音声」では音声変化[(4)]となり，「語彙」では専門語と慣用表現・社会方言[(5)]等となる。

オノマトペは，日常生活において数多く見聞きする語彙である。本稿では，オノマトペを上級～超上級での学習語彙の１つと捉えて調査分析を試みる。日本語の基礎を学び始めた段階の初中級では，語彙・文型が少なく，邦画を教材に使用することは難しい。日本語学習目標の最終段階である上級～超上級においては，口語に比して文語に多くの重きを置くゆえに諸教材にはオノマトペの使用は少ない。これらのことから，本研究ではオノマトペの表出の頻度が多いとみられる聴解用教材に注目し，そのなかでも生教材と同じように日本語母語話者の日常会話が多く含まれる邦画教材を取り上げ，学習段階別に分類し，その特徴や異なりを考察分析する。

2　日本語のオノマトペ[(6)]

オノマトペはフランス語の「onomatopée」を語源にもつ。「onomatopée」はギリシャ語の「onoma（名前）」と「poien（造る）」からなり，原意は「造語」である。オノマトペの定義は「物音・声・物事の様子・心情などを具体的かつ感覚的に表わすレトリック」である。日本には，奈良時代以降の全ての時代にオノマトペが数多く存在しているが，現在使用されているオノマトペは，同一語とみなす範囲を最も寛容にすると，その約６割が約1000年使用され続けているオノマトペとなる[(7)]。オノマトペの語源のフランス語「onomatopée」や英語の「onomatopoeia」は擬音語を意味するが，日本語では伝統的にそれらの語彙を擬音語・擬態語・擬声語・擬情語などと呼ぶ。日本語のオノマトペの特徴の１つとして，擬態語には擬音語を語源とするものが多いことが挙げられるが，文脈によって擬音語となったり擬態語となったりするオノマトペ[(8)]がある上，文脈や文が同一であっても使用されているオノマトペが擬音語であるのか擬態語であるのかがはっきりと区別できない場合もある[(9)]。本稿では擬音語・擬態語・擬声語・擬情語などを「オノマトペ」と総称する。

2.1　習得難易度の高さ

日本語母語話者にとっては非常に身近な語彙となるために辞書を引く必要性がないオノマトペだが，日常頻繁に使用されるオノマトペにも関わらず辞書に載っていない語彙もある。辞書に掲載されている場合でも[(10)]，書かれている文章を読んでその様態を理解するのは難しい。日本語には，擬音語も擬態語も数多く存在する上，広告や漫画などに多くみられるような臨時語や新語も多数造られ，死語も多く，全体の約４割は常に入れ替わっている[(11)]。このような入れ替わりの多さは習得を難しくしている。

日本語より数多くのオノマトペを持っている言語である韓国語を除くと，欧米語や中国語に比べて３～５倍のオノマトペが日本語には存在する[12]。その結果，日本語と他言語のオノマトペは対応しないことが多く，日本語のオノマトペの学習は難易度が高く，特に擬態語の範疇は認識しにくい。日本語では，例えば「笑う」という動詞１語だけではその動作がどのようなものであるのかを詳細に描写できずに，その動詞と共起する数多のオノマトペによってその動作の詳細な様態が描写できるが，１語の動詞に共起するオノマトペの種類[13]は非常に多い。その上，各オノマトペの異形[14]の数も多く，学習者のオノマトペの習得に多くの時間が掛かる要因となっている。音と意味の相関関係を表わした音象徴もなされているが，日本語以外の言語を母語とする日本語学習者にとってはその音象徴は慣習的ではなく，示唆される音象徴が母語と大きく異なる場合もあるので日本語学習を容易にするものとはならない[15]。

2.2　音韻・形態的分類

日本語のオノマトペの音韻形態は，おおむね１モーラ（mora）及び２モーラから成る２種類の基本形を持つ[16]。それら２種類の基本形からなるオノマトペの語基の末尾には,「っ」「ん」「長音」「り」が付加されて派生形態となる場合がある。同じ音の繰り返しをする反復形[17]が日本語オノマトペで一番数が多い[18]。奈良時代及び平安時代以降の各時代にも XYXY 型の反復形が最も多く占めていたという[19]。オノマトペに「と」が伴う場合があるが，オノマトペが音や様態の実演或いは再生として停止をしている場合は，引用助詞としての「と」の付加は義務的となる。その他に，語末が促音「っ」の場合や，反復形の様態副詞的なオノマトペの異形や，擬音語の臨時語や様態副詞の典型的でない形態の場合も「と」は義務的となる。日本語のオノマトペの中で数多くを占める反復形の典型的な様態副詞としてのオノマトペには「と」の付加は任意で，頻度副詞[20]などには一般的に「と」は付加されないなどの規則性が存在する。

3　超上級用教材のオノマトペ

超上級用教材の邦画[21]に使用しているオノマトペ[22]の中から教科書教材で導入されている語彙を拾い出し，初中上級の数種の総合教科書に照らし合わせ[23]，それらから新出語として導入されている級すなわち学習段階に分類し，異形のあるものに「有」を無いものに「－」を記し表１にまとめた。

3.1　語彙度が高いオノマトペ

「ゆっくり」「ぼんやり」などの慣習的で，具体的な描写に欠けるオノマトペは，オノマトペとしてではなく多くの場合は単なる副詞として認識されている。従って，その語彙のオノマトペ度は低

表１　超上級用邦画教材のオノマトペ（学習段階別）

初級での導入語彙			初中級での導入語彙			中上級での導入語彙		
オノマトペ	語数	異形	オノマトペ	語数	異形	オノマトペ	語数	異形
しっかり	9	―	きちん	4	有	あっさり	1	―
ずっ	17	―	ぎりぎり	1	―	いらいら	2	有
すっかり	7	―	ぐっすり	4	―	うろうろ	2	有
はっきり	10	―	くらくら	1	有	きっぱり	1	―
びっしり	17	―	こつこつ	2	―	こっそり	2	有
ゆっくり	7	―	ごろごろ	1	有	さっぱり	1	―
			じっ	4	―	すっ	5	―
			そっくり	1	―	すらすら	1	有
			そろそろ	20	―	ちゃりん	6	有
			たっぷり	1	―	にっこり	1	有
			ちゃん	38	―	ぱっ	5	有
			どきどき	1	有	ぱしゃぱしゃ	1	有
			とんとん	1	―	ぱっぱっ	1	有
			どんどん	3	―	はらはら	1	有
			にこにこ	1	有	のろのろ	2	有
			はっ	1	―	ばりばり	1	有
			ぴったり	1	有	びしびし	1	有
			ふらふら	2	有	びっしょり	2	有
			ぺらぺら	1	―	ひょろひょろ	1	有
			ほっ	5	―	ぶつぶつ	1	有
			ぼんやり	3	有	ぶらぶら	2	有
						ぷんぷん	1	―
						べったり	1	有
						ぼうっ	2	有
						ぼやっ	2	有
						ぼろぼろ	1	有
						めちゃくちゃ	4	―
						わくわく	1	―

く語彙度は高い。表１をみると，それらオノマトペ度が低く語彙度が高いオノマトペは初級レベルで新出されることが多いことに加え，その繰り返しの使用は多い。そのため，日本語母語話者同等以上の日本語を最終学習目標においている高い学習段階においても，語彙度が高いオノマトペは極めて使用頻度が高いことになる。すなわち，それらの語彙の習得は，初級導入語彙であるに加え，超上級レベルでの使用も多いゆえに，教室内外において各学習段階での様々な習得機会があるために容易となる。

3.2　異形をもつオノマトペ

表１を見ると，初級で導入されるオノマトペには異形をもっているオノマトペはないが，初中級で新出されるオノマトペ21語中には異形をもつ語彙が８語と38％の割合で含まれてくる。更に，中上級では異形をもつ語彙が28語中21語と75％となり，学習段階が高くなるにつれ異形を有するオノマトペの導入が増加している。すなわち，異形をもつ語彙は，日本語学習者にとって難易度が高いオノマトペとなり，それらが多く含まれる教材は高い学習段階の教材であることを意味する。

3.3　表１の分析結果

表１の初中級での導入語彙を見ると,「そろそろ帰りましょう」などとして使用される「そろそろ」と,「ちゃんとした格好」や「ちゃんと見た」などに使用されるオノマトペの「ちゃん」が，それぞれ20語と38語と突出して数多く使用されているが，それ以外では，初級での導入オノマトペの７語・８語・10語・17語に比して繰り返し使用されるオノマトペは少ない。中上級で学習するオノマトペも同様に，１本の映画の特定の１場面で６回使用された語彙「ちゃりん」を例外とすると,「すっ」「ぱっ」が５語,「めちゃくちゃ」が４語，それ以外の24語については８本の映画の中で１～２回使用されたに止まる。このように，学習段階が進むにつれて学習対象とされているオノマトペは，使用頻度が少ない語彙となり，多くの異形をもちオノマトペ度が高いが，その習得は難易度が高く語彙の定着は難しいものとなる。そこで，日本語母語話者と同じような日本語の習得を学習目標とした場合に，副詞として認識されている語彙以外のオノマトペの異形をどのようにして導入していくかが肝要となる。

4　学習段階別オノマトペ

中上級用教材としての邦画[24]に使用しているオノマトペ中から，教科書教材で導入されている語彙を拾い出し，日本語教育段階別に分類し，表１に示した超上級用邦画教材のオノマトペと共に,表２にまとめた。ただし，低い学習段階では教科書を中心とした学習となり，邦画教材の使用は少なく４本となったために，超上級用の邦画の２分の１の本数となったことから,【　】内には実際の語数の倍の数値を書き入れ，超上級用教材と同一の割合とした。

4.1　学習段階による語彙数の差異

全体的に中上級用邦画教材に使用されているオノマトペ数は，超上級用邦画教材に比して少ない。特に，中上級新出語彙ではその差は大きく,「ばりばり」「わくわく」の２語はほぼ同数の語彙数となるが，中上級用邦画教材ではそれら２語に「ぱっ」１語を合わせた計３語しか使用されておらず,超上級用邦画教材に使用されている他25語は使われていない。初中級で導入されるオノマトペにつ

表２　中上級用邦画教材のオノマトペ（学習段階別）

初級での導入語彙			初中級での導入語彙			中上級での導入語彙		
オノマトペ	邦画中語彙数		オノマトペ	邦画中語彙数		オノマトペ	邦画中語彙数	
	中上級	超上級		中上級	超上級		中上級	超上級
しっかり	3【6】	9	きちん	4【8】	4	あっさり	0【0】	1
ずっ	12【24】	17	ぎりぎり	2【4】	1	いらいら	0【0】	2
すっかり	3【6】	7	ぐっすり	0【0】	4	うろうろ	0【0】	2
はっきり	0【0】	10	くらくら	1【2】	1	きっぱり	0【0】	1
びっしり	0【0】	17	こつこつ	0【0】	2	こっそり	0【0】	2
ゆっくり	3【6】	7	ごろごろ	4【8】	1	さっぱり	0【0】	1
			じっ	0【0】	4	すっ	0【0】	5
			そっくり	1【2】	1	すらすら	0【0】	1
			そろそろ	3【6】	20	ちゃりん	0【0】	6
			たっぷり	0【0】	1	にっこり	0【0】	1
			ちゃん	8【16】	38	のろのろ	0【0】	2
			どきどき	1【2】	1	ぱっ	1【2】	5
			とんとん	0【0】	1	ぱしゃぱゃ	0【0】	1
			どんどん	3【6】	3	ぱっぱっ	0【0】	1
			にこにこ	1【2】	1	はらはら	0【0】	1
			はっ	3【6】	1	ばりばり	1【2】	1
			ぴったり	1【2】	1	びしびし	0【0】	1
			ふらふら	0【0】	2	びっしょり	0【0】	2
			ぺらぺら	0【0】	1	ひょろひろ	0【0】	1
			ほっ	2【4】	5	ぶつぶつ	0【0】	1
			ぼんやり	0【0】	3	ぶらぶら	0【0】	2
						ぷんぷん	0【0】	1
						べったり	0【0】	1
						ぼうっ	0【0】	2
						ぼやっ	0【0】	2
						ぼろぼろ	0【0】	1
						めちゃくゃ	0【0】	4
						わくわく	1【2】	1

いても，中上級用邦画教材においては，21語中８語が１回も使用さておらず，初級で導入されるオノマトペにおいても６語中２語が０回使用となっている。これらのことから，オノマトペの使用数は，超上級用教材に比較すると中上級用では極めて少ないことがわかる。

さらに，中上級用邦画教材に表出しているオノマトペを，超上級用邦画教材に使用されているそれと比較して見ると，初級で学ぶオノマトペ６語と初中級で学ぶ21語と中上級で学ぶ28語，合計55語のうち６語が中上級用教材でより多く使用されているのみで，他49語はすべて超上級用教材での

使用が中上級を上回っている。中上級用邦画４本と超上級用邦画８本の対比割合を統一した語数である【　】内の語数と，超上級用の邦画との語数の差は，「ずっと待っている」の「ずっ」と「ごろごろ」はともに７語差，「はっとする」の「はっ」は５語差，「きちんと片付ける」の「きちん」は４語差，「ぎりぎり」と「どんどん」は各々３語差となり，中上級用教材により多く使われている。残り49語中６語のオノマトペは１語差で使用語数の大きな差異はない。従って，学習段階が進むにつれて，新たな語彙のみを使用するというのではなく，高いレベルの日本語学習においても，初級レベルを含め各学習段階で導入されたオノマトペが使用され，既習語彙に新出語彙が加えられた形でのオノマトペの使用となる。しかしながら，学習段階が高くなるにしたがい，同一語彙の繰り返し使用は少なくなっている。

4.2　表２の分析結果

日本語学習レベルが高いほど使用される語彙数が増加するということは，オノマトペが高い学習段階での学習対象語彙であることを意味する。これは，日本語母語話者と同程度の日本語の習得を最終学習目標とした場合に通過する学習段階である上級および超上級での学習目標の１つに，オノマトペ習得が大きな位置を占めていることを示している。それゆえに，教材選択の１つの基準として，使用されるオノマトペ数，特に高いレベルの学習段階での新出語彙の使用語数が多いことが必須となる。更に，異形をもち且つ語彙度が低いオノマトペ数が，学習段階別の教材を選択するに大きく関わってくる。

5　語基の反復形

日本語のオノマトペには２モーラ XY の反復形 XYXY が多いことから，同超上級用映画教材から，擬声語を除く２モーラ反復形のオノマトペを取り出し，表３にまとめた。更に，オノマトペの異形への変換の法則以外にも，高い学習段階においてオノマトペを学習する際に，学習者が他語彙への変換を行うことによって，オノマトペ語彙の習得の効率性が高まると共に，語彙の定着もよりしっかりしたものとなると考え，語基 XY に「つく」を付加した形の動詞化語彙を拾って表３に記載し，同邦画にその動詞語彙が使用されているかに注目した。

5.1　オノマトペの動詞化

動詞語尾「する」「つく」「めく」「ける」「る」を結び付けることにより動詞化が可能なオノマトペがある。その中でも，使用頻度の高いものは「する」，次いで「つく」である。[25]本稿で使用した邦画においても，反復形語基に「する」を付加した動詞語彙は約20語ある。だが，表３をみてみると，日常生活において身近に使用されている語彙ではあるにも関わらず，反復形オノマトペの語

表３　２モーラ反復形のオノマトペ

反復形（XYXY 型）	語数	映画からの引用句・引用文	XY ＋「つく」		語数
いちゃいちゃ	2	いちゃいちゃするなよ	いちゃ	つく	0
いらいら	2	見てるといらいらする	いら	つく	0
うろうろ	2	回りをうろうろしているだけ	うろ	つく	0
がちがち	1	がちがちにあがっちゃって			
ぎゅうぎゅう	1	ぎゅうぎゅうとっちめられた			
	1	ぎゅうぎゅう詰めで			
ぎりぎり	1	ぎりぎり７時でも何とかなる			
ぐだぐだ	1	（何を）ぐだぐだ言ってるんだ			
ぐにゃぐにゃ	1	骨がぐにゃぐにゃして	ぐにゃ	つく	0
くらくら	1	私の魅力にくらくらよ	くら	つく	0
ごたごた	1	出がけに一寸ごたごたしまして	ごた	つく	0
ごちゃごちゃ	1	ごちゃごちゃいわないで	ごちゃ	つく	0
こつこつ	2	真面目にこつこつやってれば			
ごろごろ	1	（毎日）ごろごろしとる	ごろ	つく	0
しくしく	1	寝ながらしくしく泣いてんだ			
じりじり	1	じりじりとその差を縮めて			
ずかずか	1	ずかずか俺の所に来て			
すらすら	1	（言葉が）すらすら出てきちゃう			
ずるずる	1	ずるずると三ヶ月も居候			
そろそろ	21	そろそろ再婚のことを考えても			
ちゃらちゃら	1	ちゃらちゃら流れる御茶ノ水（※タンカバイの文中の句）	ちゃら	つく	0
つるつる	1	烏賊の刺し身，～つるつるつるつる，一気に食べちまう			
どきどき	1	何度読んでもどきどきした			
とんとん	1	とんとんと階段を駆け降りて			
どんどん	4	どんどん才能を引き出して			
にこにこ	1	にこにこ笑ってたの			
のこのこ	1	のこのこ出かけて行ったのよ			
のろのろ	2	のろのろ運転でお願いしますね	のろ？	つく	0
ぱしゃぱしゃ	1	耳元で波の音がぱしゃぱしゃぱしゃぱしゃ			
ぱっぱっ	1	土間をぱっぱっと掃いて			
はらはら	1	（電話せず）はらはらさせて			
ばりばり	1	ばりばり働くぞ			
びしびし	1	（取調べを）びしびしやって			
ぴゅーぴゅー	1	木枯らしがぴゅーぴゅー吹く			
ひょろひょろ	1	あんなひょろひょろした能なし	ひょろ	つく	0
ぴんぴん	1	昨日迄びんびんしてたんだ			
ぶつぶつ	2	ぶつぶつ言っているところに			
ふらふら	1	（何もしないで）ふらふらして	ふら	つく	0
	3	ふらふらと部屋を出て行く			
ぶらぶら	2	ぶらぶらして花を摘んだり	ぶら	つく	0
ぷんぷん	1	オーデコロンぷんぷんさせて			
ぺらぺら	1	ぺらぺらしゃべるのがいいなら			
ぽつんぽつん	1	（釣船の他の人は入れ食いだが）お二人さんはぽつんぽつん。			
ぼろぼろ	1	（魔法の）絨毯はぼろぼろになりながら二人を守るのよ			
ぼんぼん	1	（魚が）ぼんぼん揚がってる			
ぽんぽん	2	（部屋を）ぽんぽん（片付ける）。			
ぽんぽん	1	（船の汽笛が）ぽんぽんぽんぽん。			
めそめそ	1	なんだめそめそしやがって	めそ？	つく	0
もたもた	1	もたもたしてると先行っちゃう	もた	つく	0
もりもり	1	明日ももりもり～がんばろう			
わいわい	1	誰かが～わい，わい，わい，わい，～波を立てている			
わくわく	1	わくわくしちゃうな			

基に接尾辞「つく」を結び付けて動詞化した語彙は，超上級用の邦画教材中に１語も使用されていない。

5.2　表３の分析結果

反復形オノマトペの語基に「つく」を付けた表現は，その動詞化された語彙「XY つく」の動詞としての語彙度の高さゆえに使用語彙が著しく少ないと考える。言い換えるならば，動詞化語彙のオノマトペ度の低さゆえと考えられる。反復形オノマトペの語基 XY のみでの語彙の成立はなされないことから，オノマトペと「する」の結び付きは，「つく」の結び付きより弱い。反対に，「つく」なしには語彙として成立しないゆえに，接尾辞「つく」とオノマトペとの結び付きは「する」より強い。すなわち，日本語で特定の様態を表現する際，動詞と共起するオノマトペでの表現が他に比して極めて多く使用され，次にオノマトペ語尾に「する」が付いた動詞すなわち動詞とオノマトペの結び付きが弱い「XYXY する」という動詞が選択され，そして，オノマトペが動詞の部分に入り込み動詞化した「XY つく」が動詞と共起するオノマトペに代わって非常に少ないながらも使用されている。

6　お　わ　り　に

日本語学習が進んだ段階で使用する教材に，より多くのオノマトペが使用されていることから，オノマトペが上級／超上級においての上達に不可欠な語彙であることが明らかとなった。その導入は，どの学習段階においても欠かせないものであるが，学習の初期段階では，オノマトペ度が低く語彙度が高いオノマトペが導入されていることが判明した。だが，高い学習レベルにおいて導入されるオノマトペは，同じ教材においても使用頻度が少なく，さらに語彙度が低いゆえにその定着は難しいと考えられる。その高いレベルの学習段階で新出するオノマトペ語彙には異形を有している語彙が多いことから，各語彙がもつ異形の語形や意味を分析することで，それらの語彙の習得が容易になる。また，１つの様態をオノマトペ以外で写す場合もある。それらの異形および動詞化などとの規則性を見出し，日本語学習の効率と学習者の日本語能力向上に繋がる指針を示していくことを今後の課題と考える。

注

⑴　内，独立行政法人日本学生支援機構の調査によると，2007年度の５月１日の留学生数は118,498人で，大学院生31,592人，大学・短大・高専生62,159人，専修学校生22,399人，準備教育課程への留学生2,348人となる。

⑵　初中級で習得する日本語の語彙・文型がしっかりと定着しており，対訳辞典だけでなく様々な種類

の辞典を使いこなしながら，学習および研究に使用される日本語に困難はありながらも独りで学ぶことが可能なレベルが上級とされる。すなわち，日本語学習の目的によって異なるが，日本の大学・大学院で学ぶことを目的としている場合や専門的研究や日本語での仕事などを行う場合に必要となる日本語能力を学び始める段階を上級，その分野での日本語母語話者に近い日本語を有するレベルを超上級という。上級レベルの主な日本語学習目標は以下の（A）言語要素と（B）四技能となる。使用教材は初中級レベルとは異なり，学習者の日本語学習目的により差異があるが，読解用のテキスト以外に，速読用の副教材・一般教養図書や文学作品・新聞の論説やコラム・テレビの教養番組やニュース解説・ラジオ・映画などとなる。上級前期では，抜粋・編集したもの，上級後期では手を加えられていないものをそのまま教材として主に使用する。

（A）言語要素

音声	正しい発音（音色・音節・アクセント・イントネーション・プロミネンス）
文型・文法	上級文型，不整構文の理解および修正
語彙	専門語を除いて約7000語以上，各自の専門分野の語彙
文字・漢字	2000～2500字（特に，漢字意味の理解，同音語の識別，漢字辞書の使用）

（B）四技能

聴解力	講演・講義・座談会・ニュース・ニュース解説などの独話の聴解，多少の雑音の中での聴解，長さのある抽象的内容の聴解
口頭表現力	授業・演習・座談会・討論会などで，抽象度の高い内容についての口頭発表能力
読解力	業務関連などの専門的な内容の読解，参考書や文献を読む力
文章表現力	要約，論文・レポートの作成，内容を正確に伝える表現力，要点筆記能力

超上級レベルにおいては，分野によって異なるが，日本語母語話者の使用する生教材を教材とする。しかし，ニュースや新聞記事などは，超上級レベルの学習者にとっては習得が容易な日本語の範疇となり，日本語能力を向上させるためには，ニュースの読み上げの中に様々な声や音が入り混じり聴き取り難いもの，速度が非常に速いニュース，トピック内容が新しいニュースや記事，そして，より専門性および抽象度が高いものとなる。小説等の使用は，特定の専門分野の学習者に限られるとともに，超上級レベルでは，学習者は自身の専門分野においての日本語能力は超上級に至るまでに既に有している場合が多い。従って，読解においては高度な専門書や『文芸春秋』などの雑誌や新出のトピック内容の新聞記事などとなり，聴解においてはドラマやドキュメントや邦画などが教材として使用される。

⑶　日本語教育においての「文型」とは，語学学習の文法とほぼ同一のものを指す。

⑷　例えば，「ぼくは」が「ぼかあ」，「もの」が「もん」となる発音の変化を指す。

⑸　地域差による語彙・表現の異なりを地方方言と称し，社会の「男女差」「年齢差」「職業」等によっての語彙・表現の異なりを社会方言という。

⑹「ハハハと笑う」などの擬音語は片仮名で書く場合が多く，「つるつる滑る」などの擬態語は平仮名で書く場合が多いが，本稿ではすべて平仮名で表記する。

⑺　山口仲美「中古象徴詞の研究――『今昔物語集』を中心に――」『私学研修』107･108合併号，山口仲美著『平安朝の言葉と文体』風間書房 ･1998年再録より

⑻　例えば,「ばりばり」というオノマトペは,「竜巻によって屋根や壁がばりばり音をたてて破壊された」では擬音語に，「ばりばり働く」では擬態語となる。

⑼　飛田良文・浅田秀子 [共著]『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版によると，「ベーコンをかりかりに焼く」の「かりかり」は，ベーコンを食べる際の音としての擬音語，或いはベーコンが硬く焼き上がっている状態を表わす擬態語とも考えられるという。

⑽　辞書に記載されているオノマトペだけでも約2000語ある。

⑾「音をことばにする，ということ山口仲美さん」

http//recre.boxerblog.com/nihongo/2005/05/post_7af9.html

⑿ 『暮らしのことば　擬音語・擬態語辞典』序文」
http://www015.upp.so-net.ne.jp/naka0930/ronbunn8.html

⒀ 例えば，「にこにこ」「げらげら」「くすくす」「にやにや」など。

⒁ 例えば，「にっこり」「にこっと」などのオノマトペは「にこにこ」の異形となる。

⒂ 金田一春彦は『擬音語・擬態語辞典』角川書店，1978の中で，有声音［ｂ，ｄ，ｇ，ｚ］は「鈍・重・大・汚」を示し，それに対応する無声音［ｐ，ｔ，ｋ，ｓ］は「鋭・軽・小・美」を示すとしている。「ぽんぽん／ぽんぽん」「どんどん／とんとん」「がさがさ・かさかさ」「ざらざら／さらさら」なども異形の意味の異なりは多少生じるが，有声音・無声音によってグループされた音象徴と一致するが，以下のモンゴル語のオノマトペは対応しない。

モンゴル語のオノマトペ	日本語での意味	モンゴル語のオノマトペ	日本語での意味
たるたる	大きな岩がごろごろと転がる様子	だるだる	小石がころころと転がる様子
たんたん	大きな太鼓を強くどんどんと打つ	だんだん	小さな太鼓を弱くとんとんと打つ

⒃ １モーラ基本形のオノマトペの数は非常に少ない。

⒄ 「とんとん」「ふらふら」「びくびく」等の XYXY の４音節からなる形を指す。

⒅ 「声喩・オノマトペ」
http://www.geocities.jp/balloon_rhetoric/example/onomatopoeia1.html

⒆ 山口仲美『犬は「びょ」と鳴いていた――日本語は擬音語・擬態語が面白い――』光文社

⒇ 「ちょくちょく」「ちょいちょい」など。

㉑ 「お日柄もよく，ご愁傷さま」「国会へ行こう！」「就職戦線異状なし」「釣りバカ日誌７」「男はつらいよ／紅の花」「男はつらいよ／寅次郎恋やつれ」「男はつらいよ／寅次郎の縁談」「男はつらいよ／寅次郎の青春」の８本。

㉒ 語彙性の非常に高い「ちょっと」は除いた。

㉓ ある特定のオノマトペ語彙が，級の異なる教科書にそれぞれの新出語彙として載っている場合は，各級の教科書総数の中でより多くの割合の教科書に記載されているほうの級を，そのオノマトペ語彙が導入される級とした。

㉔ 「GO」「シコふんじゃった。」「Shall we ダンス？」「となりのトトロ」の４本。

㉕ 田守育啓，ローレンス・スコウラップ『オノマトペ――形態と意味――』くろしお出版，1999，pp.56-57

参考文献

青山秀夫編『朝鮮語象徴語辞典』大学書林
郭華江編『日中擬声語・擬態語辞典』東方書店　1994
筧寿雄・田守育啓編『オノマトピア』勁草書房　1993
田守育啓，ローレンス　スコウラップ『オノマトペ――形態と意味――』くろしお出版，1999
日本語教育学会編『日本語教育辞典』大修館書店　1982
宮川喜代江『日本語らしい日本語への翻訳』近代文芸社　1996
山口仲美編『暮らしのことば　擬音・擬態語辞典』講談社　2003
芳賀綏『日本人らしさの構造――言語文化論講義』大修館書店　2004